

安心ゾーンから勇気ゾーンへ

茗溪塾塾長 宇野 雅春

平和な時代だから「安心ゾーン（安心圏）」で生きていけると、子供たちは信じて疑っていない様子です。先日高3、中3と「合同特訓」がありましたが、来なかった生徒は、やはり「安心ゾーン」に留まりたいという思考が強いのではないかと思います。面倒なことはしないで、「勉強すればいいのでしょ！」という感じです。日々無理をしたくないという人が増えている中で、子供たちの中にも「安心ゾーン」志向が根強くなってきている時代なのではないでしょうか？

例えば、思い切って、「合同特訓」に参加するという事を「勇気ゾーン」に出ることだとすると、そもそも受験は、「勇気ゾーン」で行われることだと思えます。この受験も安心ゾーンで済ませたいという流れも実は根強くあります。「推薦」を利用するという考えです。最小限の努力で、まあまあ結果でよいというのがその根底にはありますが、自分の中に目標のようなものが芽生えてくると、その時になって「受験期」の中途半端な選択を後悔することもあるようです。

職業に「安心ゾーン」はなくほとんどが「勇気ゾーン」です。生きていく厳しさに必ずさらされることになるのに、障害を一つ一つ取り除いてあげようという親心は、本当の意味で子供のためにはならないと思います。障害を越える力をつけてあげるのが、教育という事なのではないでしょうか。

最近の心理学の研究では安心ゾーン（コンフォートゾーン）を抜け出すことは、人間としての成長と生産性向上に大きく貢献するといわれています。つまり世界一心地の良い状態を抜け出してちょっと無理と感じる（またはちょっと怖いと感じる）「courage ゾーン」（勇気ゾーン）へ抜け出すという事です。

今、受験をめぐって勇気ゾーンへ出そびれている人たちへの提案を挙げてみます。

- ①完璧を望まずいまできることからすぐ始める。
- ②自分の弱点、今できないという事を正直に受け止める
- ③早く決め即実行する
- ④勉強のやり方について工夫しそれを友達と共有してみる

大学受験も推薦組は既に結果が出始めています。中学入試も千葉県第一志望入試がはじまりました。高校入試も学校の面談が終わり、単願の受け入れが決まってきます。受験の形はいろいろ違いますが、時期もずれながら混沌とした中で受験自体が進んでいきます。

自分の目標を見極めたうえで、自分のペースを乱さずやり遂げることが、要求されます。

不安に悩むこともあると思いますが、それが勇気ゾーンにいる証です。そこが成長への一歩と考えましょう。ルーティンワークに埋もれてしまうのは大人でもよくあることです。ひたすら安心ゾーンを目指すことが「幸福」なことではないと思います。